令和５年度　新潟市精神保健福祉審議会　会議概要

開催日時	令和５年１２月２２日（金）　午後２時～午後４時
会　　場	新潟市こころの健康センター　２階　会議室
出席委員	秋庭委員、五十嵐委員、栗原委員、鈴木委員、染矢委員、坪谷委員、中村（協）委員、中村（勝）委員、松本委員、村山委員、山田委員、湯川委員、若穂囲委員、渡邉委員 （出席１３名，欠席２名）
事 務 局	保健所長、こころの健康センター所長、こころの健康センター所長補佐，こころの健康センターいのちの支援室長、こころの健康センター係長、障がい福祉課長
傍 聴 者	なし
内　　容	【議事】 （１） 会長・副会長選出 ○会長に染矢委員、副会長に若穂囲委員が選出。 （２） 精神保健福祉施策について ○事務局より資料１に基づき、依存症対策事業、ひきこもり支援、精神障がい者地域移行・地域定着支援事業、精神科救急医療システム事業、措置入院者等の退院後支援事業（措置入院実績を含む）、精神保健福祉等相談事業（受診勧奨実績を含む）、精神医療審査会・判定会議、普及啓発・教育研修、精神保健福祉施策の概要（福祉部障が福祉課分）、精神保健福祉関係事業歳出予算について説明を行った。 ○委員からの意見・質問 〈若穂囲委員〉 ひきこもりについて様々な苦悩を抱えながら外に出れない方もおり、そのような方が依存症であることも多いという現場の実感がある。そのようなところについては連携して活動していくことが良いと思われる。 〈松本委員〉 発達的な問題やコミュニケーションの問題を抱えている学生が多い印象を受ける。 〈秋庭委員〉 心のサポーター養成研修に参加した人たちに自分たちの行っている居場所づくりを作ってもらえるようになると良いと思う。 〈坪谷委員〉 家族の高齢化等もあり、成果が目に見える形になると良いと思っている。段階的な目標を設定し、進めていくべきかと思うが、行政はどう考えているか。

	⇒にも包括の全体像が見えない中で新潟市としてそのような課題を示すかという議論を進める中で、やっと具体的な課題が見えてきたところであるため、何年という単位で指標設定や事業評価を行っていきたいと考えている。 〈湯川委員〉 クリニックの立場からすると、入院が必要な患者さんを受け入れてもらうシステムがあると助かる。うまくいかなかった事例等を、後から振り返る場があると良いと考えるが、そのような場はあるものか。 ⇒個別の事例を県・市の会議で取り扱うことは難しいかもしれないが、具体的な事例があればそれを出していただき、そのような具体的な事例を盛り込んだ議論をすることはできると思うので、一報いただきたい。 〈渡邉委員〉 トラウマケア等について、初心者向けの研修を開いてほしい。特に子供のトラウマケアなどは、情報や受け皿が少ないと感じる。 （３） 自殺総合対策について 〇事務局より資料２及び資料２－１に基づき「自殺総合対策について」説明をした。 〇委員からの意見・質問 〈中村委員〉 相談業務を行っていると、相談してこられる方は女性が多く、男性は相談に来づらい傾向にあるのではないかと思う。 〈村山委員〉 ２０２０年（コロナウイルス流行や芸能人の自殺などがあった年）の「新潟いのちの電話」の相談件数が、男女ほぼ同数。それ以前は女性がかなり多かった。テレビなどでも、相談窓口が周知されたことで、男性の相談件数が増加したことも考えられるため、相談窓口の周知は今後も継続していくと良いと思われる。 （４） 新潟市医療計画について 〇事務局より資料３に基づき「新潟市医療計画について」説明した。 〇委員からの意見・質問なし （５） その他 〇委員からの意見・質問なし。